

平成修理の内容

解体・清掃し、目や口に施されていた後補の彩色を取り除きました。虫喰部分には錆び漆を注入し、朽損部分は薬液により木材強度の回復を促し、木屎漆や錆び漆で形状を調整しています。また、化仏面（頭部の11の仏面）や脇手38本が正しい位置に配されました。

詳細は下記のとおりです。

①解体・清掃

一旦解体して清掃しました。清掃には、ろ過水やエタノールを使用しました。

②彩色層除去

彩色は最下層（後補）を残しすべて取り除かれました。

③虫損・朽損修理

虫喰部分には錆び漆を注入し、朽損部分は薬液により木材強度の回復を促したのち、木屎漆や錆び漆で形状を調整しました。

④調整

- ・立ち姿を調整するため、足柄は現状のままに柄穴の内側を加工しました。
- ・足柄部材やその周囲の接着にはニカワを用い矧目を木屎漆や錆び漆で調整しました。
- ・足先を像の立脚にあわせ、左足先材を約7ミリ外側へ、右足先材を4ミリ内側に移動しました。
- ・地付き部分の解体により、像底から当初の彫刻面が発見されたため、この形状に合わせて後補材を削り直しました。
- ・髻・天冠台上の朽損部分は薬液により木材強度を回復を促したのちに木屎漆や錆び漆を用いて形状を整えました。
- ・脇手の取り付け方法を一新しました。（右写真）
- ・各脇手を新たに補完した台木に矧ぎ付けました。当初部材の彫刻面は極力現状のままとし、主には元禄期の修理による補材を加工・修正しました。

⑤その他

- ・持物は脇手の形状に合わせて配し、錫杖・戟の柄を新調しました。
- ・瓔珞などの銅製装飾品は、解体し薬液を用いて清掃した後に、真鍮製針金を用いて組み直しました。

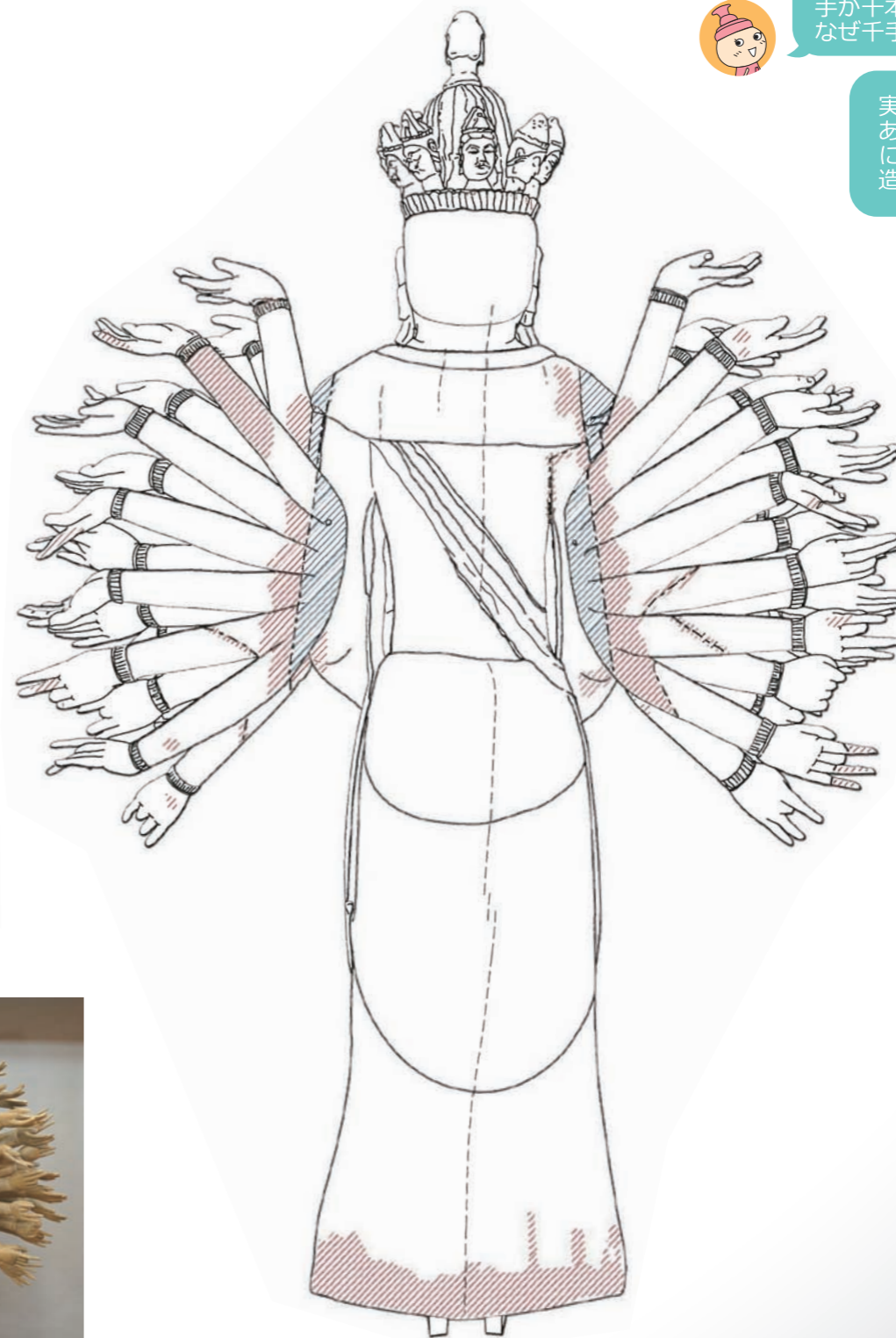


猿投神社（山中観音堂）木造千手観音立像 修理か所前方



脇手の接続方法 仏像後方より見る

脇手の接続方法 仏像前方より見る



猿投神社（山中観音堂）木造千手観音立像 修理か所後方

あれ？
手が千本もついてないよね？
なぜ千手観音っていうの？

実際に千の手を持つ観音像もあるけど、中央の2手のほかに40の手を加えた42手で造られることが一般的なんだよ

40本の手はそれぞれが25種類の世界を救うことができるという考えから40本の手×25種類の世界=1000つまり千手で、その手には様々な法力（仏法の威力）や徳を示す持物（仏像が手にしているもの）を持っているんだよ

ちなみにすべての世界を25種類に分ける考えのことを三界二十五有（さんがいにじゅうごう）と言うんだよ

平成修理での新発見

像の本体の材質がヒノキではなく、カヤであったことや、すべて後補であるとされてきた脇手合計38本のうち、17本が平安時代に制作されたと考えられる点（残り21本は元禄修理時の井上左源次による補作）は新発見と言えます。しかし、古様の脇手17本は、本体の材質と違うヒノキ材であることや制作時期が少し下ることなどから、本像の当初の様相については、今後も様々な知見からの考察が期待されます。